

# 会よりのお知らせ

## ○平成4年度総会

平成4年度総会は平成3年3月29日(日)に千葉県船橋市の日本大学理工学部習志野校舎において開催されました。幹事長挨拶に続き、下記の平成3年度事業報告、平成4年度事業計画、平成3年度決算報告および平成4年度予算案が提出され、承認されました。引き続き同会場で、平成3年度光学論文賞授賞式が行われ、中野義昭氏(東京大学工学部)、笹木敬司氏(新技術事業団極微変換プロジェクト)が受賞されました。また、同氏による光学論文賞受賞記念講演が行われました。

平成4年度事業計画では、新進の研究者に対して日本光学会が行う表彰である日本光学会奨励賞が新たに設置されることになり、その表彰は光学連合シンポジウムで行われることになりました。

## ○平成3年度事業報告

平成3年1月1日～平成3年12月31日

### 1. 会誌等の出版

「光学」(KOGAKU, Japanese Journal of Optics)

Vol. 20, No. 1～12

「光学白書」, 「会員名簿」

### 2. 光学論文賞

授賞2名

### 3. 講演会, 講習会

参加者数

第17回冬期講習会「レーザー光の波長変換—基礎と最近の新展開」 1月16～17日 118名

第24回光学五学会関西支部連合講演会「今日の色—心理から最新技術まで」 2月1日 123名

平成2年度日本光学会北海道講演会 2月1日 84名

平成3年度日本光学会春季講演会(東京工業大学研究室の見学会を併催) 4月15日 24名

第16回光学シンポジウム「光学系の設計, 素材, 製作, 評価を中心として」 6月20～21日 213名

第28回サマーセミナー「光極限技術」 8月21～23日 71名

光学連合シンポジウム高松'91「光技術の最先端」 10月12日 145名

第8回色彩工学コンファレンス 11月18～19日 320名余

平成3年度日本光学会名古屋講演会(名古屋大学研究室の見学会を併催) 11月22日 32名

第22回画像工学コンファレンス

12月10～12日 511名

### 4. 研究グループ

視覚, ホログラフィック・ディスプレイ, 微小光学, 光コンピュータ

### 5. 幹事会, 委員会

幹事会 3回

常任幹事会 4回

編集委員会 8回

文献抄録委員会 6回

文献抄録委員会関西 3回

評議会 2回

### 6. 会員数(平成3年12月31日現在(( )内は昨年度)

A会員 751名(748名)

B会員 1,186名(1,165名)

特別会員 139名(133名)

計 2,076名(2,046名)

賛助会員 88社151口(87社151口)

## ○平成4年度事業計画

平成4年1月1日～12月31日

### 1. 会誌

「光学」(KOGAKU, Japanese Journal of Optics)

Vol. 21, No. 1～12

### 2. 光学論文賞, 日本光学会奨励賞

### 3. 講演会, 講習会

参加者数

第18回冬期講習会「光ファイバの可能性を探る」

1月21～22日 51名

平成3年度日本光学会北海道講演会

1月31日 61名

OSA/OSJ ジョイントミーティング「Advances in Color Vision」 1月30～2月1日 110名余

第25回光学五学会関西支部連合講演会「人・光・色—知覚から新しい技術まで」 2月7日 68名

第17回光学シンポジウム「光学系の設計, 素材, 製作, 評価を中心として」 6月25～26日

第29回サマーセミナー 9月1～3日

日本光学会北陸講演会

光学連合シンポジウム京都'92 9月19日

第9回色彩工学コンファレンス

10月28日～30日

平成4年度日本光学会名古屋講演会  
第23回画像工学コンファレンス

12月9日～11日

## 4. 研究グループ

視覚, ホログラフィック・ディスプレイ, 微小光学,  
光コンピュータ

## 5. 幹事会, 委員会

幹事会	2回
常任幹事会	4回
編集委員会	8回
文献抄録委員会	6回
文献抄録委員会関西	3回

## ○ 平成3年度会計決算報告

平成3年1月1日～12月31日

大科目	中科目	金額(千円)	内 容 (金額記入)
(収入の部)			
会費収入		12,384,400	
	会費収入	12,384,400	
事業収入		13,121,583	
	講習会収入	5,118,382	サマー 2,076,882, 冬期 3,041,500
	研究会収入	628,300	光学シンポ 628,300
	会誌出版事業収入	6,746,766	別刷代收収入 1,603,770, 広告料収入 5,142,996
	その他事業収入	628,135	名簿広告料
雑収入		770,733	
	受取利息	552,967	
	雑収入	217,766	バックナンバー, 資料コピー代
引当金戻入		235,350	
	回収不能引当金戻入	235,350	
繰入金収入		9,535,000	(他会計よりの受入金)
	分科会賛助会員還元金	4,992,000	40×80%×156口
	分科会給与補助	4,543,000	学会担当者分
当期収入合計		36,047,066	
前期繰越収支差額		8,218,768	
収入合計		44,265,834	
(支出の部)			
講習会事業費		4,385,680	光学サマーセミナー 1,788,870/冬期講習会 2,002,749 /光学シンポジウム他講演会 594,061
	臨時雇賃金	107,244	アルバイト手当 3,500/64,744/39,000
	印刷製本費	1,494,343	490,454/895,739/108,150
	諸経費	2,784,093	会議費 73,639/175,853/136,601, 旅費交通費 419,256 /178,320/86,000, 通信運搬費 51,045/21,840/76,634 消耗品費 1,854/330/556, 貸借料 100,000/101,970/ 7,150, 諸謝金 646,444/562,511/136,777, 雑費 2,678 /1,442/3,193
会誌出版事業費		22,281,976	
	印刷製本費	16,455,633	会誌, 宛名ラベル他

	発 送 通 信 費	2,258,230	発送通信費
	諸 経 費	3,568,113	会議費 234,370, 旅費交通費 1,219,660 通信運搬費 345,008, 消耗品費 5,288, 貸借料 0 編集依頼費 1,236,000, 諸謝金 498,000, 雑費 29,787
そ の 他 事 業 費		2,894,435	
	助 成 金 支 出	660,912	関係先補助金等, 研究グループ
	名 簿 作 成 費	2,233,523	
管 理 費 (含 幹 事 会)		7,693,825	
	給 料 手 当	4,543,000	学会担当負担分
	印 刷 製 本 費	128,542	諸印刷費, 資料コピー代
	賃 借 料	46,500	
	諸 経 費	2,712,783	臨時雇賃金 0, 会議費 302,523, 旅費交通費 1,867,980 消耗品費 3,733, 通信運搬費 327,309, 諸謝金 0 雑費 121,318, 消費税 77,700, 振替手数料 12,220
	回 収 不 能 引 当 金	263,000	
繰 入 金 支 出		1,808,685	(他会計への支出額)
	学 会 事 務 費	1,808,685	事務手数料
予 備 費		0	
当 期 支 出 合 計		39,064,601	
当 期 収 支 差 額		△ 3,017,535	
次 期 繰 越 収 支 差 額		5,201,233	

○平成4年度会計予算

大 科 目	中 科 目	金額(千円)	内 容 (金額記入)
(収入の部)			
会 費 収 入		13,580	
	会 費 収 入	13,580	A B会員 2,048名×6千円, 特別会員 185名×7千円
事 業 収 入		13,700	
	講 習 会 収 入	6,000	講習会別 サマーセミナー 2,500, 冬期講習会 3,500
	研 究 会 収 入	500	光学シンポジウム他
	会 誌 出 版 事 業 収 入	7,200	別刷代収入 1,700, 広告料収入 5,500
雑 収 入		700	
	受 取 利 息	400	受取利息
	雑 収 入	300	バックナンバー 300, 資料コピー代
繰 入 金 収 入		10,118	(他会計よりの受入金)
	分 科 会 賛 助 会 費 還 元 金	5,120	40×80%×160口
	分 科 会 給 与 補 助	4,998	学会担当者分
当 期 収 入 合 計		38,098	

前期繰越収支差額		7,040	
収入合計		45,138	
(支出の部)			
講習会事業費		5,550	サマーセミナー 2,200, 冬期 2,900, 光学シンポ 450
	臨時雇賃金	160	アルバイト手当
	印刷製本費	1,820	
	諸経費	3,570	会議費 560, 旅費交通費 1,790 通信運搬費 155, 消耗品費 0 貸借料 300, 諸謝金 730, 雑費 35
会誌出版事業費		21,650	
	印刷製本費	14,550	会誌
	発送通信費	2,550	発送通信費
	諸経費	4,550	会議費 260, 旅費交通費 1,700 通信運搬費 340, 消耗品費 160, 貸借料 100 編集依頼費 1,200, 諸謝金 700, 雑費 90
その他事業費		520	
	補助費	460	光コンピューター 100, 光学五学会 10, 光学連合シンポ 150, OSA ジョイント 200
	参加費	60	APOF 参加費 ¥50*9口
管理費 (含幹事会)		7,961	
	給料手当	4,998	学会担当負担分
	印刷製本費	300	諸印刷費 280, 資料コピー代 20
	賃借料		
	諸経費	2,463	臨時雇賃金 10, 会議費 220, 旅費交通費 1,500 消耗品費 10, 通信運搬費 220, 諸謝金 0 雑費 310, 消費税 173, 振替手数料 20
	回収不能引当金	200	
繰入金支出		2,208	(他会計への支出額)
	学会事務費	2,208	事務手数料 1,385, 配布誌実費(賛助会員分) 753, 講習会手数料 70
予備費		209	
当期支出合計		38,098	
当期収支差額		0	
次期繰越収支差額		7,040	

## ○ 第137回幹事会

平成4年3月19日(木)に東京、麴町の日本写真機光学機器検査協会において開催され、庶務、会計、「光学」の編集、講演会・講習会の経過、日本光学会評議会答申、光学論文賞、日本光学会奨励賞、平成4年度の総会

提出議案、幹事会引継ぎ事項などについて報告と審議が行われました。

日本光学会評議会の答申として、事業計画の見直し、学会組織に関する諸問題、光学論文の見直しと日本光学会奨励賞の設置、研究グループとの関係および国際化への対応について報告されました。それを受け、光学論文

賞の規定変更案および日本光学会奨励賞の設置案が承認されました。趣旨および詳細は本号 367 ページをご覧ください。

### ○平成3年度第6回編集委員会

平成4年3月11日(水)に東京、本郷の三田出版会ミタホールにおいて開催され、新旧編集委員の引継ぎ、および「光学」各号の編集状況と企画について報告と審議が行われました。新委員には、いままでいなかった分野の方も何人か加わっていただきました。

### ○光学連合シンポジウム京都'92の論文募集のお知らせ

4月号でお知らせしたように、本年より光学連合シンポジウムは、一般講演を中心に学会形式で行われます。講演募集の詳細は本号巻頭色紙に掲載の案内をご覧ください。

### ○第17回光学シンポジウムのお知らせ

平成4年6月25日(木)～26日(金)に東京、六本木の東京大学生産技術研究所において、「光学系の設計、素材、製作、評価を中心にして」をテーマに第17回光学シンポジウムが開催されます。詳細は本号369ページ掲載の案内をご覧ください。

### ○第29回サマーセミナーのお知らせ

平成4年9月1日(火)～3日(木)に北海道千歳市の支笏湖畔国民休暇村において、「情報光学」をテーマに日本光学会主催サマーセミナーが開催されます。詳細は本号371ページ掲載の案内をご覧ください。参加ご希望の方はお早めにお申込みください。定員は100名(先着順)で、申込み締切は7月26日(日)です。

### ○ホログラフィック・ディスプレイ研究グループよりのお知らせ

#### ●平成4年度第1回例会の予定

日時：1992年5月29日(金) 14:00～17:30

場所：日本大学理工学部13号館

千葉県船橋市習志野台 7-24-1

新京成電鉄北習志野駅下車徒歩15分

当日連絡先：日本大学理工学部電子工学科

吉川 浩 電話 0474-69-5391

演題：1) 大型広視域ホログラム

池上皓治(沼津工業高専)

2) (交渉中)

3) 電子ホログラムディスプレイ

吉川 浩(日本大学)

参加費：会員500円/一般2,000円

参加申込：不要、当日受付

問合せ先：〒263 千葉市稲毛区弥生町 1-33

千葉大学工学部画像工学科 岡田勝行

電話 043-251-1111 内線 2874

講演終了後、電子ホログラムディスプレイのデモと研究室見学を行います。

### ○光コンピュータ研究グループよりのお知らせ

#### ●第48回光コンピュータ研究会の報告

1992年2月7日(金)に東京大学生産技術研究所第一部会議室において行われました。話題は「直交位相コードを用いた並列アクセスホログラフィックメモリ」(松下電器産業・武富義尚)、「カラー画像解析用光学的並列演算システム」(埼玉大学・豊岡 了)でした。参加者は16名でした。

#### ●第49回光コンピュータ研究会の報告

1992年3月29日(日)に日本大学理工学部習志野校舎において第39回応用物理学会関係連合講演会のインフォーマルミーティングとして行われました。話題は「2層 feed-forward ニューラルネットワークによる情報処理」(オリンパス光学応用研究部・和田利明)でした。参加者は27名でした。

#### ●第50回光コンピュータ研究会の予定

日時：1992年6月5日(金) 14:00～17:00

場所：慶応義塾大学理工学部16A棟3階B会議室

神奈川県横浜市港区北日吉 3-14-1

電話 045-563-1141

内容：1) 非線形光学と光コンピュータ

梅垣真祐(慶応義塾大学)

2) 光コンピュータ研究会50回記念特別企画

講演「50回をふりかえって」

石原 聡(電総研)

パネルディスカッション

「これからの100回にむけて」

司会 谷田貝豊彦(筑波大)

参加費：無料

問合せ先：〒113 東京都文京区本駒込 5-16-9

(財)日本学会事務センター

光コンピュータ研究グループ事務局

電話 03-5814-5801

研究会については、  
電子技術総合研究所光情報研究室 森 雅彦  
電話 0298-58-5623

なお、本研究会は、電子情報通信学会光コンピューティング時限研究専門委員会第10回研究会と共催です。

●第51回光コンピュータ研究会の予定

日 時：1992年7月9日(木) 13:00～  
7月11日(土) 12:00

場 所：伊豆長岡健保保養所「けんぼ長岡」  
〒410-21 静岡県田方郡伊豆長岡町田端 174  
電話 0559-48-5445

内 容(予定)：

- 1) 光メモリ材料
- 2) 光アクティブデバイス  
松田賢一(松下電器)
- 3) 光交換の現状と動向  
中神隆清(富士通)
- 4) 光計測と光コンピュータ  
谷田貝豊彦(筑波大)
- 5) 光ニューラルネット  
久間和生(三菱電機)
- 6) 画像クロスパー演算  
福井将樹(NTT)
- 7) 討論 テーマ「光コンピュータの手前に来るもの」
- 8) 国際会議報告 OC '92, PS '92,  
CLEO '92

定 員：35名(先着順)

参加費：

	会員*	非会員
一般	29,000円	34,000円
大学・公立研究所	20,000円	24,000円
学生	17,000円	18,000円

\* 日本光学会、電子情報通信学会会員

申込締切：1992年6月19日(金)

申込方法：申込用紙(光コンピュータ研究会機関誌OPCOM NEWS Vol. 9, No. 2に添付；または、下記までご請求ください)に必要事項をご記入の上、下記宛先までお送りください。なお、申込み後の取消し、あるいは不参加の時にも、参加費の払戻しはいたしませんのでご了承ください。

申込書送付先(問合せ先)：

〒305 茨城県つくば市天王台 1-1-1  
筑波大学物理工学系 伊藤雅英

電話 0298-53-5308 Fax 0298-53-5205

e-mail: itoh @ optlab. bk. tsukuba. ac. jp

問合せ先：〒113 東京都文京区本駒込 5-16-9

(財)日本学会事務センター

光コンピュータ研究グループ事務局

電話 03-5814-5801

なお、本研究会は、電子情報通信学会光コンピューティング時限研究専門委員会第11回研究会と共催です。

○第9回色彩工学コンファレンス論文募集のお知らせ

1992年10月28日(水)～30日(金)に東京、神宮外苑の日本青年館・中ホールにおいて催開予定の第9回色彩工学コンファレンス(第38回光学四学会連合講演会)の論文を募集いたします。前号巻頭および本号巻末綴込みの論文募集をご覧の上、お早めにお申込みください。なお、応募締切は7月10日(金)です。

○第23回画像工学コンファレンス論文募集のお知らせ

1992年12月9日(水)～11日(金)に東京、芝公園のABC会館ホールにおいて開催予定の第23回画像工学コンファレンスの論文を募集いたします。本号巻末綴込みの論文募集をご覧の上、お早めにお申込みください。なお、応募締切は7月10日(金)です。

○関連国際会議のお知らせ

●International Symposium on Quantum Physics and the Universe

日 時：1992年8月19日～22日

場 所：Waseda University International Conference Center

内 容：Recent developments in the foundations of quantum mechanics—both physical and epistemological—at the interface of quantum physics, cosmology and chaos.

問合せ先：M. Namiki, Y. Aizawa, K. Maeda, or I. Ohba

Department of Physics, Waseda University  
Shinjuku-ku, Tokyo 169-50

Phone (3)-3203-4141 ext. 73-3660

Fax (3)-3200-2567

E-mail namiki, chaos, maeda, or

ohba @ jpnwas00. bitnet

## 光学論文賞規定の改訂と日本光学会奨励賞の新設

池田光男（京都大学，前幹事長）

光学論文賞規定をやっと改訂することができた。やっというのは現在の規定は昭和55年4月1日施行で有効期限が10年とされていたからである。10年たてば見直せということで期限がつけられたらしいが、その期限が2年前つまり私が幹事長に就任したときに切れたのであった。早速改訂すべきであったが、見直しとは単に字句を直せばよいというものではない。問題点を洗い出しそれらを改善する改正でなければならない。そこで幹事長を主査とし、鶴田前幹事長やその他の有識者、光学編集委員長らからなる検討委員会を設置して検討の態勢を作った。しかし問題はそう単純でないことは容易に理解された。すなわちこれは論文賞単独の問題ではなく光学会活動全般に関係することだからである。

光学会はいくつかの課題をかかえている。たとえば講演会、講習会などの事業は今のままでよいか、とくに論文口頭発表の独自の場がない点はどう考えるべきか、アジア太平洋光学会(APOF)への対応をどうするか、研究グループをどのようにするかなどである。論文賞のあり方はこれら諸問題をどう考えるかと関係することである。そこで論文賞検討委員会はしばらく開店休業とし、光学会全般についての意見を光学会の諸先輩にお聞きすることにし、幹事長経験者等の15名よりなるアドホックの評議会を設置した。評議会は2回開催され答申案が幹事長に出された。それを受けてやっ論文賞検討委員会を開催し、そして今回の論文賞規定改訂になったのである。検討委員会はしかし現存の論文賞の改訂だけにとどまらず日本光学会奨励賞という新しい賞の設置も提案してきた。

幹事会はこのような評議会および論文賞検討委員会の答申を受け慎重審議の結果、ここに公表するような光学論文賞規定改訂と日本光学会奨励賞を新設することを決定したわけである。改訂された規定と新賞の意図を要点のみ説明するとつぎのとおりである。

【光学論文賞】 受賞資格者の年齢制限を現行の35歳から40歳に引き上げる。これによってより高度の研究論文が審査の対象となり、論文賞の権威が今以上に上がると期待される。検討の段階では年齢制限をはずすと意見も出たが、論文賞は若い人を対象とするという創設時の思想は伝承すべきということで、やはり年齢制限を設けることにした。次の特徴は審査対象雑誌から従来の「応用物理」と「JJAP」を外し「光学」掲載のものと、自薦、他薦のものとしたことである。精神は他薦を重視しようということである。しかし今までの経験からすると他薦はきわめて少ないので、論文賞の権威を保っていくためにはいい論文を多く推薦してもらうよう諸機関に積極的に働きかけねばならない。これは幹事会の重要な役割となった。もう一点、審査会についてである。今までは審査会については一切非公開としてきた。しかし今回からは審査終了後審査員の氏名を公表するようにした。審査内容の非公開は従来と変わらない。

【日本光学会奨励賞】 これは新設の賞である。まず年齢は30歳までとする。大学で言えば博士後期課程在学あるいは修了者くらいが対象となろう。将来が期待される若き研究者を奨励しようというのがこの賞である。対象論文は「光学」掲載のものに限るのもこの賞の特徴である。日本光学会の唯一の学会誌である「光学」を育てていきたいという願いもこめられている。この賞は日本光学会の賞であり、授賞式は秋の光学連合シンポジウムで行われる。第1回日本光学会奨励賞はこの秋の「光学連合シンポジウム京都'92」で、日本光学会の一岡幹事長の手から渡されるはずである。受賞者の選考は光学編集委員長が主査となる審査委員会で行われる。

日本光学会は論文賞規定改訂と奨励賞の新設でまた一歩新しい歩みを始めたということになる。これらの賞を育てていただくよう会員の皆さんのご理解とご協力をお願いする次第です。

### 光学論文賞規定

昭和34年6月

昭和54年9月改訂

平成4年3月改訂

1. この規定は光学に関する優秀論文の著作者に対して応用物理学会が行う表彰について定める。
2. この表彰を「光学論文賞」という。
3. 表彰の対象は表彰時の前年9月までの1カ年間に発行された光学に関する学術刊物に発表された原著論文の著者とする。但し数年間にわたり継続発表された原著論文の著作者をも含む。
4. 受賞候補者は原則として、表彰の年に満40歳未満の応用物理学会日本光学会会員とする。
5. 受賞者は公募に応じた自薦および他薦の候補者および「光学」掲載論文の著作者から選考する。
6. すでに公に顕著な賞を受けた論文の著作者へは、同じ論文の著作に関しては原則として表彰しない。
7. 表彰は毎年2件以内とする。
8. 表彰は賞状授与および記念品贈呈とする。
9. 表彰は毎年応用物理学会春季講演会中に行う。
10. 日本光学会常任幹事会は毎年9月までに受賞候補者募集要項を「光学」および「応用物理」誌上に公表し広く募集する。
11. 受賞者の選考は日本光学会幹事長が委嘱した光学論文賞選考委員会が行う。
12. 受賞者が決定したときは日本光学会幹事長は選考の経過および結果を応用物理学会理事会および日本光学会幹事会に報告する。
13. この賞の実施に関する必要な事項の審議および決定は日本光学会常任幹事会が行う。

附則 この規定は平成4年4月1日から施行する。

### 光学論文賞選考規定

昭和34年6月

昭和54年9月改訂

平成4年3月改訂

1. 光学論文賞選考委員会は日本光学会幹事長、編集委員長、文献抄録委員長、および光学の分野にしたがって幹事長が委嘱した若干名の選考委員をもって構成し、幹事長を委員長とする。
2. 選考委員の任期は当該年度の表彰までとする。
3. 日本光学会常任幹事会は受賞候補者の募集に際して、大学、研究所等に受賞候補者の推薦を求める。
4. 選考委員会は必要な場合、論文リストを作成し予備選考を行う。

5. 選考委員会は毎年1月上旬までに受賞者を選考し、その結果を幹事会に報告する。
6. 選考委員の氏名は選考後公表する。
7. 選考委員は選考内容については、受賞者決定後といえどもこれを口外してはならない。

附則 この規定は平成4年4月1日より施行する。

### 日本光学会奨励賞規定

平成4年3月

1. この規定は光学に於ける新進の研究者に対して日本光学会が行う表彰について定める。
2. この表彰を「日本光学会奨励賞」という。
3. 表彰の対象者は原則として表彰年度の第3号までの1カ年間に「光学」に掲載された原著論文の著作者とする。但し「光学」に数年間にわたり継続発表された原著論文の著作者をも含む。
4. 受賞候補者は日本光学会会員で原則として表彰の年に満30歳未満の者とする。
5. すでに公に顕著な賞を受けた論文の著作者は、同じ論文の著作に関しては原則として表彰しない。
6. 表彰は毎年2件以内とする。
7. 表彰は賞状授与および記念品贈呈とする。
8. 表彰は毎年光学連合シンポジウムに於いて行う。
9. 受賞者の選考は「光学」編集委員長が委嘱した日本光学会奨励賞選考委員会が行う。
10. 受賞者が決定したとき日本光学会奨励賞選考委員会委員長は選考の経過および結果を日本光学会幹事会に報告する。
11. この賞の実施に関する必要な事項の審議および決定は日本光学会常任幹事会が行う。

附則 この規定は平成4年4月1日から施行する。

### 日本光学会奨励賞選考規定

平成4年3月

1. 日本光学会奨励賞選考委員会は「光学」編集委員長および編集委員長が編集委員から選出して委嘱した若干名の選考委員をもって構成し、編集委員長を委員長とする。
2. 選考委員の任期は当該年度の表彰までとする。
3. 選考委員会は毎年7月10日までに受賞者を選考する。
4. 選考委員の氏名は選考後公表する。
5. 選考委員は受賞者決定後も選考内容について口外してはならない。

附則 この規定は平成4年4月1日から施行する。



## 第 17 回光学シンポジウム

## 「光学系の設計、素材、製作、評価を中心にして」

第 17 回光学シンポジウムを下記のとおり開催いたします。今回は新たにポスターセッションを設け、また 5 件の招待講演をお願いしました。多くの方々のご参加と活発なご討議をお願いいたします。

日 時：1992 年 6 月 25 日(木)～26 日(金)

場 所：東京大学生産技術研究所 3 階第 1 会議室

(東京都港区六本木 7-22-1 電話 03-3402-6231)

営団地下鉄千代田線乃木坂駅下車徒歩 4 分

営団地下鉄日比谷線六本木駅下車徒歩 7 分 (地図参照)

参加費：一般 5,000 円, 日本光学会員 (個人, 賛助会員) 3,500 円, 学生 1,000 円

(すべて予稿集代を含む。事前の参加申込みは不要)

## プログラム：

6 月 25 日 (木)

— 午前の部 — (9:30～11:55)

## 開会の辞

1. 光干渉計測の最近の進歩 (招待講演) 理化学研究所 山口一郎
2. 断面干渉縞解析によるトロイダル面の測定方法  
(株)リコー 須原浩之, 佐久間伸夫, 鈴木清三, 大沢孝之, 露崎 晋  
埼玉大学 豊岡 了
3. 多波長同時測光形屈折率の温度係数測定装置の開発 (株)オハラ 山内 洋, 池上 豊, 大門昌彦  
(ポスターセッション・ショートプレゼンテーション)

昼食 (11:55～13:40)

— ポスターセッション — (12:00～13:30 第 4 会議室, ～17:30 まで掲示)

4. プランアクロマート系におけるラジアル GRIN レンズの利用法  
オリパス光学工業(株) 永岡利之, 樋田博文, 山本公明
  5. 新しい zone-plate 干渉計による大口径非球面の計測  
東京工業大学 本田捷夫, 関 海克, 川本洋志, 山口雅浩, 大山永昭
  6. 銅蒸気レーザー光の空間的コヒーレンス成長過程  
東京大学生産技術研究所 尾松孝茂, 高瀬智弘, 黒田和男
  7. 両側テレセントリックズームレンズの設計 大日本スクリーン製造(株) 林 尚久, 脇本善司
  8. 80 チャンネルレーザープロッター用光学系の設計  
大日本スクリーン製造(株) 岡崎雅英, 林 尚久, 脇本善司
  9. レンズの最終画像シミュレーション 東京工芸大学 伊藤進一, 森 峰生, 関森 敦
  10. フォトリフラクティブ結晶中における屈折率格子分布の非接触測定  
東京大学生産技術研究所 岡村秀樹, 黒田和男  
筑波大学 伊藤雅英
  11. 高速スペックル速度測定器の開発 コニカ(株) 中村幸登
- 午後の部 — (13:40～17:30)
12. 正弦条件とハーシェル条件 (物点の光軸方向の移動による球面収差の発生について)  
光学技術コンサルタント 早水良定
  13. CRT-ビデオプロジェクタ (VPS) 用リア型スクリーンのシミュレーション 松下電器産業(株) 大橋孝司
  14. 一般非点ガウシアンビームの追跡法 コニカ(株) 宮前 博
- 休憩 (15:10～15:30)
15. ビーム整形用両面アナモフィックレンズ 松下電器産業(株) 吉川智延

- 16. 高精度医用レーザプリンタ光学系の開発 富士写真フイルム(株) 野口 勝, 石川弘美, 宮川一郎
- 17. 技術屋の人的側面について (技術屋はどうあるべきかについての私見) (招待講演) キヤノン(株) 松居吉哉

6月26日(金)

一午前の部 (9:30~12:00)

- 1. SPIE 国際会議 (International Symposium on Optical Fabrication, Testing, and Surface Evaluation) 報告 (招待講演) 東京工業大学 本田捷夫
- 2. 口径 8m「すばる」望遠鏡とその補助光学系 国立天文台 家 正則
- 3. 照明光源の強度分布を考慮した光学系 北海道大学 大塚喜弘, 岡 和彦
- 4. リニア・アレイの素子形状と撮像性能 (財)リモートセンシング技術センター 興石 肇  
富士通 FIP 岩田芳隆
- 5. 指画像入力装置 (株)東芝 羽成 淳, 竹田昌弘, 内田 智

昼食 (12:00~13:00)

一午後の部 (13:00~17:20)

- 6. ニュートンゲージの規格化 (招待講演) 名古屋造形芸術大学 鈴木正根
- 7. 組み上がりレンズ偏心測定機の開発 オリジナル光学工業(株) 米沢友浩
- 8. 紫外線顕微鏡の開発 オリジナル光学工業(株) 鹿島伸悟

休憩 (14:45~15:05)

- 9. レンズ系特許の審査について (招待講演) 特許庁 吉野公男
- 10. 汎用的なズームレンズの合焦方式の研究 (株)ニコン 稲留清隆
- 11. 非球面を多用した4枚構成ズームレンズの開発 ミノルタカメラ(株) 大沢 聡, 岡田尚士, 福嶋 省, 升本久幸

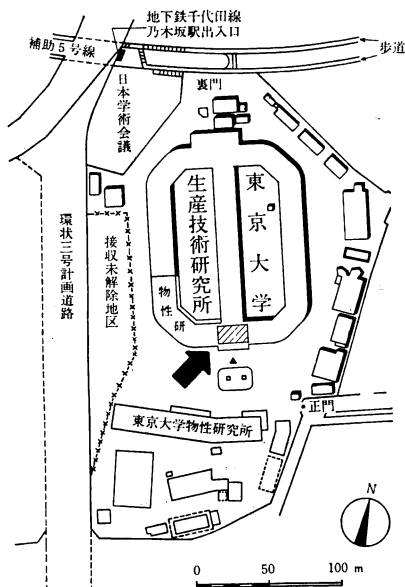
12. LSズームの発展  
閉会の辞

注: 25日の講演終了後, 懇親会を催しますので多数ご出席下さい。

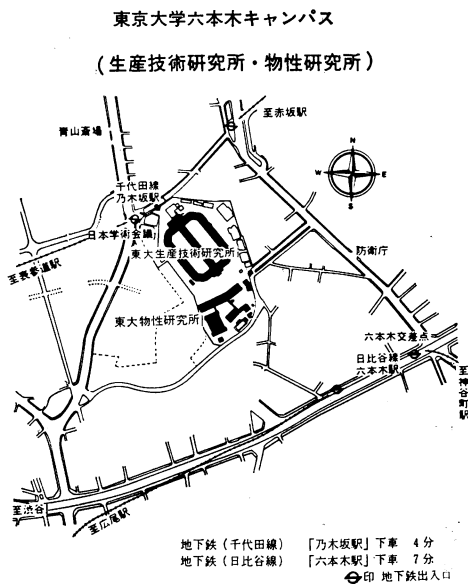
問合せ先: 〒140 東京都品川区西大井 1-6-3

(株)ニコン光学本部第2光学部第2光学課 森 孝司

電話 03-3773-1111 (内) 2357 FAX 03-3774-8541



東京大学生産技術研究所配置略図



東京大学六本木キャンパス  
(生産技術研究所・物性研究所)  
地下鉄(千代田線) [乃木坂駅] 下車 4分  
地下鉄(日比谷線) [六本木駅] 下車 7分  
印 地下鉄出入口

第29回サマーセミナー (1992年)

「情報光学」

——光技術の新展開をめざして——

情報社会の進展により、通信、医療をはじめ各分野で情報の大容量・高速処理、あるいは、電子計算機が最も不得意としていた、認識・推論などの知的情報処理（右脳的情報処理）への要望がますます高まっています。光技術はこれまで、情報処理や情報通信の分野で、入出力・表示機器、計算機間通信などに使われてきました。最近では、情報処理の中核においても、光が本来もつ特性を活かした超高速・超並列情報処理、あるいは光ニューラルネットワークに基づく知的情報処理の可能性が認識され、その実現に向けて研究・開発が行われています。さらに、医療をはじめとする各分野で、ますます増大する情報の蓄積技術、マンマシーンインターフェースとしての3次元表示技術などにおいても、光技術への期待は大きくなっており、「四次元コンピュータ」などの国家プロジェクトにおいても中核技術として位置づけられています。最近、これらの光技術を系統立てた「情報光学 (Information Optics)」という分野が形成されつつあります。

このように、光は入力から処理、通信、ファイリング、蓄積、出力まで、情報の担い手としてますますその有用性に期待がかかっており、「情報光学」の分野が重要になると予測されます。そこで、今回のセミナーでは、光技術の新たな展開の議論の場を提供するために、標記のテーマを企画いたしました。講師には第一線で活躍されている方々をお招きし、「情報光学とは何か?」の定義から、「情報光学」がめざす方向について、その現状と将来展望などをご講義いただき、将来の夢などを一緒に考えて行きたいと思えます。光技術の今後の発展を期しておられる方々を始め、多数の方々のご参加を歓迎いたします。

主催：日本光学会（応用物理学会）

協賛：計測自動制御学会、情報処理学会、精密工学会、テレビジョン学会、電気学会、電子情報通信学会、日本オプトメカトロニクス協会、日本写真学会、光産業技術振興協会、レーザー学会

期日：平成4年9月1日（火）、2日（水）、3日（木）

場所：千歳市支笏湖温泉 支笏湖畔国民休暇村（温泉） 電話 0123-25-2201

（千歳空港、JR 千歳駅よりバス 40分、支笏湖畔バスターミナルより徒歩 10分）

プログラム：

日	時	講演題目	講師
9/1 (火)	14:00 ~17:00	●イントロダクトリートーク —情報光学と新しい光学システム— ●情報と光物理—歴史的発展—	一岡芳樹(阪大工) 朝倉利光(北大電子科研)
9/2 (水)	8:30 ~17:00	●情報と光物理—ホログラフィから位相共役光学まで— ●超高速・超並列光センシングとその応用 ●知的情報処理と光ニューロコンピュータ 「特別講話」 1) 国家プロジェクトと光技術—情報光学を中心に— 2) 国際化時代における光関連研究開発	藤原裕文(室蘭工大) 石川正俊(東大工) 久間和生(三菱電機中研) 島田潤一(電総研) 矢嶋弘義(電総研) 朝倉利光(北大電子科研)

9/3 (木)	8:30 ~12:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医用画像ファイリングシステム</li> <li>●三次元表示—ホログラフィ技術を中心に—</li> <li>●情報光学と光デバイス</li> <li>●閉会の辞—情報光学への期待—</li> </ul>	大山永昭(東工大) 西田信夫(日電光エレ研) 神谷武志(東大工) 大塚喜弘(北大工)
------------	----------------	---	---

**参加費：**(テキスト, 消費税を含む)

一般 ¥33,000 応用物理学会および協賛学協会会員 ¥31,000

日本光学会会員 ¥30,000 学生 ¥10,000

\*賛助会社の方は会員扱いとします。(申込書会員 No. 欄に光学賛助は No. 3 に, 応物賛助は No. 2 に賛助とご記入ください。なお, 光学および応物の賛助会員欄をご参照ください。)

**申込手続き：**受講費を, 参加者名で下記口座にお振り込みください。同時に所定の申込用紙(本号綴込み)を, 応用物理学会日本光学会セミナー係宛ご送付ください。入金確認順に受講通知をお送りします。申込み後の取消し, 不参加の場合にも払い戻しはいたしません。

〈会社などの経理担当の方へ〉必ず参加者名で振り込んでください。会社名義の総合振込をしないでください(参加者名が不明となります)。請求書の事前発行はいたしません。

**申込締切り：**平成4年7月26日(ただし期限内でも100名に達しましたら締め切らせていただきます)

**申込先：**〒102 東京都千代田区九段北 1-2-6 国松ビル4階 応用物理学会内  
日本光学会サマーセミナー係 電話 03-3238-1043

**送金口座：**さくら銀行 本店営業部 普通預金口座 3133847

応用物理学会日本光学会セミナー係

(略称 コウガクセミナー係)

(応用物理学会の口座とは異なりますのでご注意ください)

**宿舎：**1日, 2日の宿舎は支笏湖畔国民休暇村(2泊6食16,000円程度)をお世話します。ご希望の方は申込書にご記入ください。宿泊料は登録の際, 現地でお払込みください。なお, 予定の変更はお引受け致しかねます。